



只今、確定申告真っ最中。毎年のことながら、てんやわんやしております。今年こそは早く終わろ〜っと思っておりましたが、何やかんやで、バタバタです。来年はもっと段取りよく進めたいものです。何事も事前の段取りが肝心ですね。



## 今月のトピックス

1. 社長室から、こんど〜です
2. 経営まめ知識  
「人間として成長・成功する〜物の見方・考え方」
3. 社会保険労務士の秋岡です
4. 今月のお勧め本「できるやんか！」

## ◆ 社長室から、こんど〜です

毎日走り回っているうちに、もう3月になってしまいました。日々少しずつ暖かくなってきました。春はもうすぐそこですね。確定申告も終盤に入り、私達もあと少しと、みんなで頑張ってます。税理士の先生が書類を早く税務署へ送り込もうと、じゃんじゃん印鑑を押しています！

今日は、先日百年企業サークルで学んできたことをお話させていただきます。全国に町おこしの仕掛人が沢山います。その人達がどうやって町を活性化させたのか、ご紹介します。

まず最初は、**新潟の村上市の吉川さん**です。吉川さんは、町の中に大きな道路が通り近代化されようとしたのを反対し、町屋のお人形様めぐりというのを成功させ、観光客が何万人も来る町にした人です。吉川さんは平成9年にある人に出会い、村上が近代化されることを話したところ、村上ももう終わりだなと言われ、なぜですか？と尋ねたら、その人が「近代化されて成功した町はひとつもない。古き伝統を残し栄えた町は沢山ある。」と言われたそうです。吉川さんはその夜眠れなかったそうです。町屋のお人形様めぐりを成功させて吉川さんが言ったことは、

- |   |   |        |
|---|---|--------|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>① 出来る範囲で考えない</li> <li>② みんなで頑張らない</li> <li>③ みんなで考えない</li> </ol> | } | 全部自助努力 |
|---|---|--------|

無謀と言われることをすることだそうです。

次に、**愛媛県伊予市の若松進一さん**(役場の地域振興課の課長さん)です。この人は、何も無い人口5,500人の双海町の人で、夕日のミュージアムというユニークな美術館を作った人です。この町のキャッチフレーズは、「沈む夕日が立ち止まる町」とロマンチックです。この取り組みを始めたのは20年前とのこと。今では沢山の家族連れやカップル等、年間55万人が訪れます。(ちなみに、観光客3万人で1億円の経済効果があると言います。)若松さんがなぜこれに取り組んだかと言うと、自分の古里に何も無いから、双海町出身の若者が自分の古里を語れないというところからです。若松さん曰く、人間は生まれた時は99.9%みんな一緒だそうです。違いは、



夕日が立ち止まる町双海町：夕日のミュージアム

- ① 本を読む → 読んだことを書く
- ② 人の話を聞く → 聞いたことを話す(人に自分の心を伝える)
- ③ 色々な物を見る → 見たことを実践する

人の為に球拾いができるような人がリーダーであると話されています。とてもユニークな人柄と、次から次へと出てくるアイデアで色々な人を巻き込み、すばらしい町にされました。是非一度行ってみたいと思います。

こんな風に観光カリスマ 100 選に認定される人々は、皆さん思いが強く、思いの強さ、志の強さが成功への源となっています。九州での「宮崎をどげんかせんといかん！」というのと似てますね！

企業の差は現場の考える力の差、10年後は必ず来ると思って考えて行動する。成長とは、小規模の家業の時代だから出来ていたことを、大きくなっても情熱溢れる経営を続ける。小さい家業だからこそ出来ていた情熱溢れる「一人のお客様の満足と一人の社員の幸せ」の実現をより高めながら進む。このことを原点とし、勉強し続けていきます。ありがとうございました。

(株)大成経営開発社長 近藤 記



## ◆ 経営まめ知識

### 「人間として成長・成功する～物の見方・考え方」

私は最近つくづく感じる事があります。若い時にも考えたのですが、成長するための『物の見方・考え方』があると。私たちは、近代教育の洗礼を受けていますので相対的に左脳は発達しています。学校で『努力する事』を教えられましたが、右脳教育としての『努力の仕方』つまり、『物の見方・考え方』についての教育がなされていません。これはある意味で偏差値教育社会で優秀だった学校の先生自体がそうなので、今の教育体制では仕方がない事かもしれません。

努力の仕方とは、現代人間科学研究所の飛岡健さんはその著書『物の見方・考え方』のなかで如何に自己を客観化できるか？また、画家で芸術家の千住博さんは如何に相手の立場で思考できるかと言っています。

私は、毎年毎日いろいろの方に日本で世界でお逢いしています。初対面の方が多く、自分自身考えさせられる事が多々あります。そんな中で幸せになっていく方々、またその逆の方々の相談をいつも会社経営という機会を通してお世話させて頂いています。私の仕事は、死ぬまで学び続けなければ問題解決は出来ない仕事です。常に時代は変化しているからです。変化しないのは、人間という動物の本質的な思考回路ではないでしょうか？

帝王学の原点である中国の孫子によりますと、『人間の叡智は 2,500 年前には出尽くした』と言われてます。私たちは、行動をする前に、努力をする前に、努力の仕方を学ばなければならないのではないのでしょうか。『努力をしなさい』という先生方、社長様方は多いが、努力の仕方を教えてくれる人がいないような気がします。

飛岡先生、千住博さんに限らず先人は、いろいろの事を著しています。自己が報われる努力の仕方がわかるためには、自己を客観化し、相手の立場で思考し、仮説思考ができる事が必要みたいです。京セラの稲盛会長ではありませんが、常に明るく元気よく夢と希望を抱いて誰にも負けない努力をする事が必要です。その時に、自分自身の『物の見方・考え方』を常に点検と同時に、進化させていかなければならないと思います。



(大成経営コンサルティンググループ 会長 石本 東京事務所にて記)

## ◆ 社会保険労務士の秋岡です

皆様初めまして、社会保険労務士の秋岡です。平成19年12月に事務所を開いたばかりのピカピカの1年生です。とはいえ、同じ大成グループの中の竹馬社会保険労務士事務所に長いこと勤務しており、グループの中では結構ずうずうしく(?)していたのではと赤面の限りです。今回、たいせいグループ通信に私を紹介して下さることになり、有難いやら、恥ずかしいやら・・・

今回は、私の失敗談を紹介したいと思います。

皆様、チャンスの前髪という言葉をご存知でしょうか。3、4年前のことになりますが、友人を通して「秋岡さんが免許を取れたら、労務士を変えてもいいので声かけて下さい♪」と伝言が入りました。私は喜んで御礼の手紙を出しました。それから3年も4年も試験に合格しません。今回やっと免許が取れましたので喜び勇んでお礼方々仕事の依頼のお願いに行きました。そして、ものの見事に断られました。どうしてかって？友人に伝言された時期、担当の職員の態度が悪くて嫌がっておられたそうです。今は大事にされていますので、変えるわけにはいかないとの事。ショック！（でも後日お祝いの品が届きました。）



声が掛かったときになぜ行動を起こさなかったのだろうか？せめて話をするだけでもよかったのに。。なぜ？これがチャンスの前髪だあ～。後ろ髪はないんだあ～。今、自分自身に向かって「ほらほら、ちゃんと人の話を聞かないと。」と苦笑しています。

私の仕事はサービス業です。お客様が依頼をして始めて成り立つものです。今回のことは色々反省、そして勉強しました。今後もどんなドジ話やら、感動話やらが出てくるのでしょうか？楽しみです。

(社会保険労務士 秋岡 記)

## ◆ 今月のお勧め本『できるやんか！』

著者：中井政嗣  
出版社：潮出版社  
価格：1,238円



著者の中井氏は、お好み焼き「千房」の社長さんです。とにかく熱い人という表現がピッタリでしょう。お客様に対してはもちろんのこと、従業員に対しても、です。例えば、札付きの非行少年を社員として採用した時のこと。なかなか思うようには応えてくれないわけです。でもちゃんと向き合って接して、思いを伝えていかれます。その根気たるや大変なもの。普通なら、この子はダメだからと諦めてしまいそうなところですが。その根底には、「人間って欠けているから伸びるんや」という思いがあるのだとか。

本書の中でこんなくだりがあります。“円筒は上から見れば円に見え、横から見れば長方形に見える。「2+3」は誰が考えても答えは「5」だけれども、答えが「5」になる組み合わせはいく通りもある。” そういう多様性を受け入れる余裕と感性は大切にしたいものだなと思ったことでした。

### 編集後記

秀吉は殿様の履物を懐で温めていたのが認められ出世していったというのは有名な話。私(←統括室の三原デス)は、毎朝社長の湯たんぼを作っては社長の足元を温めておりますが、出世は、ん？。。。最近随分暖かくなってきたので、もう湯たんぼもいらなくなってきたなあと思う今日この頃。もう春ですね～。お弁当作って、どこかへお出掛けしたいなあ～。黄砂と花粉が心配だけれど。

発行元 (株)大成経営開発

熊本市田井島1-3-50 TEL:096-377-1101 FAX:096-377-1114

E-mail: taisei-k@arion.ocn.ne.jp http://www.taiseikeiei.co.jp

